

サロス周期

日食は一定の周期で起こるわけではありませんが、全く規則が無いわけではありません。サロス周期という18年と10日ごとに、経度が120度西に離れた地域で、ほぼ同じ条件の日食が見られます。

今回の日食の1サロス周期前(18年前)は、1991年にハワイなどで見られた皆既日食で、日本からも大勢の人が日食観測に出かけました。

更に今回の日食の5サロス周期前(90年前)には、アインシュタインの一般相対性理論を証明する観測がなされました。一般相対性理論によると、太陽の近くに見える星は太陽の重力により見える位置がずれることが予測され、皆既日食中に見える星の位置の精密観測によって、実際にずれが確認されました。